

平成 29 年度 第 1 回神戸市歯科保健推進検討会（議事要旨）

日時：平成 29 年 4 月 11 日（火）19 時 30 分～21 時 30 分

場所：TKP 三宮ビジネスセンター 6 階

司会：中山課長

1 開会

2 あいさつ（三木局長）

3 議事要旨

事）：事務局、委）：委員

（1）口腔保健支援センターの設置について＜資料 2＞

事）「“健康創造都市 KOBE” の推進」ということで、口腔保健を総合的に推進していくため、「神戸市歯科口腔保健推進条例」に基づき、「神戸市口腔保健支援センター」を設置。業務内容、構成メンバーなどについては、資料 2 の①に記載。

- ・ 歯科衛生士の担当地区は、各区の業務量・出生数・人口の割合・健診回数等を勘案して、概ね大きな区とそうでない区を組み合わせで決定。

（2）口腔がん検診の実施支援について＜資料 3＞

事）口腔がんの早期発見・予防は重要であるため、平成 29 年度より歯科医師会への補助事業として 500 万円の予算措置を実施。

委）関係機関による小委員会を立ち上げ事業の推進を図っていく予定。

（3）訪問口腔ケア推進事業報告＜資料 4＞

委）歯科衛生士向けの研修会時に事業への登録を実施。今後は登録人数の増加だけでなく、歯科衛生士の技量の向上を図っていく。

委）介護者の理解を深める啓発が必要なので、今年度は周知に力を入れていく。

委）対象者は多いと思うが、歯科衛生士会と協力して受診者の増加につなげていきたい。

委）訪問口腔ケアが進んでいくためには、歯科医師や歯科衛生士だけでなく、介護関係の協力が不可欠と思うので、多職種連携により事業をうまく軌道に乗せてほしい。

委）訪問診療は国も推進しているが、利用者が使いやすいシステムが必要。今回の研修は歯科衛生士のスキルアップにつながった。歯科医師も次回の研修を参考に、安全に事業を進めていくことが必要。また、ニーズをしっかりと把握し、ケアマネジャー等と連携して、うまくつなげていくことが必要。

（4）地域包括ケア推進会議の報告＜資料 5・5-1・5-2＞

事）地域包括ケア推進部会における検討項目＜資料 5-1＞について説明

健康寿命延伸のための「介護予防」のあり方の中の項目として、口腔ケアが上げられており、在宅医療の充実を図るため関係機関の連携が重要。

事）専門部会の設置について（案）＜資料 5-2＞について説明

- ・ 専門部会は 4 部会を考えているが、次の 2 部会に歯科口腔に関する項目がある。「健康寿命延伸のための介護予防に関する部会」「医療介護連携のあり方に関する部会」
- ・ 専門部会の人選については今後検討し、検討内容は次の項目を予定。「健康寿命延伸のための介護予防」「機能改善につながる効果的な介護予防サービス」「フレイル対策」「口腔ケア」等が歯科関連としてあがっている。

委）高齢者に対する医科歯科連携を言われているが、医科からは重症化してからが多い

ので、早期からの関わりができないか。

委) 介護予防には歯科衛生士の関わりが、ある程度効果的であるということが立証されているので、ぜひ専門部会の中に歯科衛生士を入れてほしい。

事) 医療介護サポートセンター事業の効果検証<資料パンフレット>について説明

委) 地域包括ケアシステムの中にすでに組み込まれているので、それぞれの立場でできることを考えていかなければならない。例えば認知症の早期発見につなげたり等他から何かをつなげられたりする立場にあると思われる。

事) サポートセンターは医師会により作られた経緯があり、口腔保健の部分をどのように入れていくのか、区や市としてのアプローチ等の方法がある。

- ・区によって関わり方がかなり違うように思うが、医師会側の在宅ケアに関する温度差があるので、順次実施していつている。また、医療介護サポートセンターは市民相手ではなく、医療関係者等からの相談に答える窓口である。

委) 区において、医師会、歯科医師会の連携が必要ではないかと思う。今後必ず進めいかなければならないため、医師会との良好な関係づくりが必要と思われる。

#### (5) 「こうべ歯と口の健康づくりプラン」の改訂について<資料6>

事) オーラルフレイルについて、フレイルより先にオーラルフレイルがくるので、今後それらも含めて考えていきたい。

委) 周術期の連携はプランに入っているが、その他の疾患も含めて連携を考えたい。

委) 外傷で脱臼等も多いため、特にスポーツ外傷や顎関節症等もどうか。

委) 口腔機能不全に関することも、フレイルと絡めて「口腔機能低下症」が今話題にのぼっているところである。

委) 噛むことについては、姿勢が大切なので、そのあたりも入れたらどうか。

委) 高校・大学となると親の目も届かず、生活も不規則になりがちで、口腔内の状態が悪くなることが多い。18~20歳代位で何か対策を考える必要があると思う。

委) 学校についてはデータが必要だが、教育委員会からプライバシーに関係しない範囲で出してもらえるとと思うので、それを元に対策が考えられるのではないか。

委) 妊娠期の対策は、妊婦本人の口腔内と子どもへの影響について分けたらどうか。

事) 今回説明に使用した資料は、概要版であるため分かりにくいですが、本編の中では分けて詳しく説明している。

#### (6) 今後のスケジュール等について

委) 次回は、「こうべ歯と口の健康づくりプラン」の案を提示していかないといけないと思われる。取り上げたい議題として、サポートセンターとの関係も考えていく必要がある。

委) 若者・壮年期の内、企業（健診）へのアプローチの強化を考えていく必要がある。

事) 次のプランは5年間なので、今後5年間に向けてどのように進めていくのか考えていきたい。11月は市民向けの啓発を考えている。

- ・国や市の関係からも大きく変わるものではないが、オーラルフレイルのような新しく出てきた内容も盛り込んでいきたい。4年間の中で変わったところを入れていく。